西之島の火山活動解説資料（令和８年 10 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

2023 年 10 月５日以降、噴火は確認されていません。また、西之島付近で周囲に比べて温度の高い領域は認められません。
山頂火口内で噴気が確認されていることから、今後も、小規模な水蒸気噴火が発生する可能性があります。山頂火口から概ね１㎞の範囲では引き続き警戒が必要です。
令和８年９月８日に火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報を発表し、警戒が必要な範囲を山頂火口から１㎞に縮小しました。その後、警報事項に変更はありません。

○活動概況

・衛星による地表面温度及び噴火の状況（図１）

気象衛星ひまわりの観測では、今期間、噴火は観測されませんでした。
西之島付近の地表面温度[1)]については、周囲とほとんど変わらない状態となっています。

・現地の状況（図２～４）

海上保安庁が 21 日に実施した上空からの観測では、噴火は認められませんでしたが、火砕丘中央火口の火口底で白色噴気が認められました。火砕丘中央火口内の火口湖は干上がっていました。島の全周の広範囲にわたり黄褐色及び黄緑色の変色水が認められました。島の沿岸の一部に、浮遊物の塊が認められました。

1）輝度温度による。輝度温度とは、気象衛星で観測された放射エネルギーを観測対象が黒体と仮定して変換した温度のことで、他の温度と区別するためこのように呼ばれています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
次回の火山活動解説資料（令和８年 11 月分）は令和８年 12 月８日に発表する予定です。
資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は、海上保安庁のデータも利用して作成しています。
資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

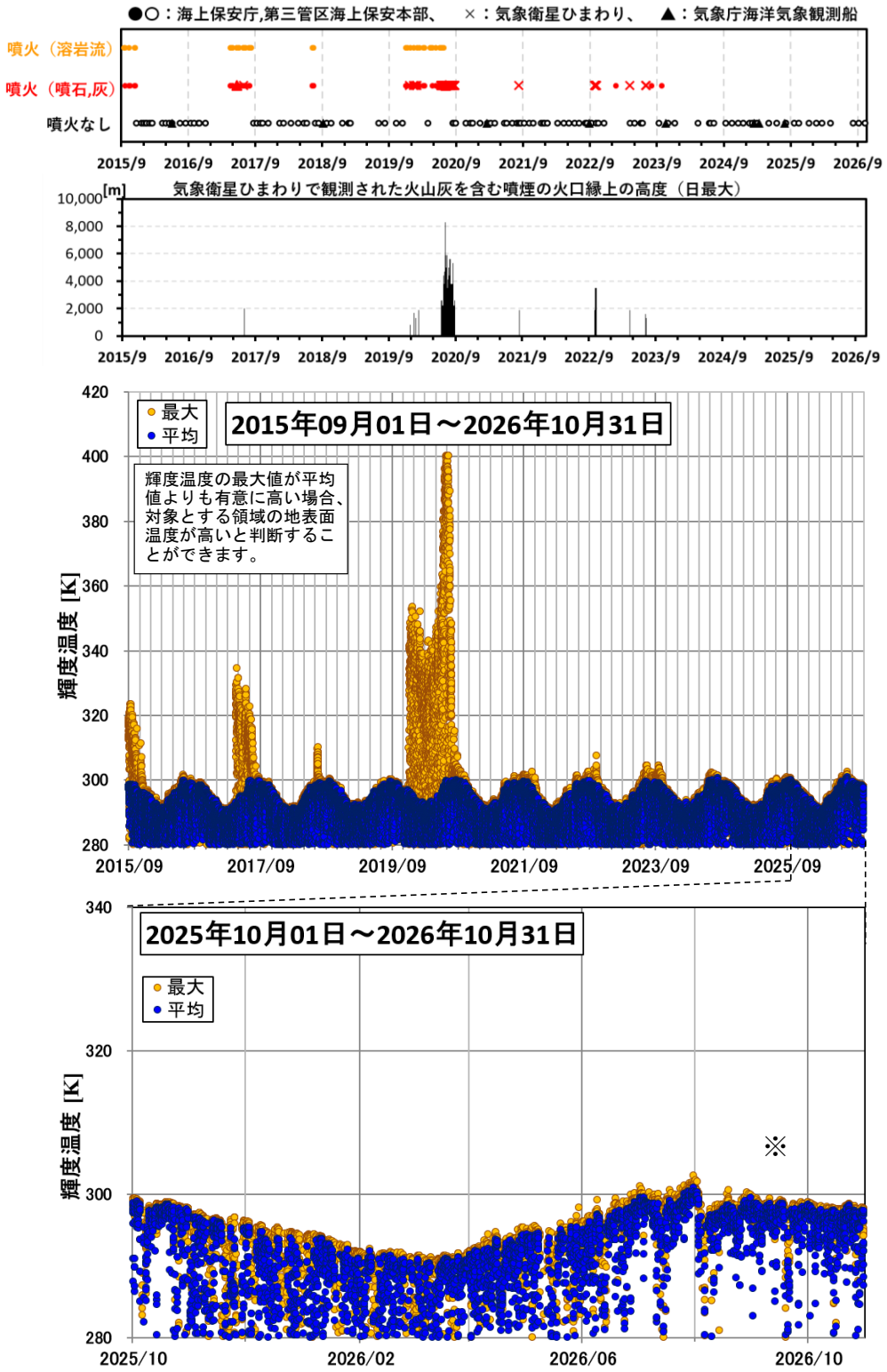


図１　西之島　気象衛星ひまわりの観測による西之島付近の輝度温度の変化と各機関の観測結果

１段目：西之島観測結果。シンボルがあるタイミングで観測が行われています。●○は海上保安庁、第三管区海上保安本部の観測を、×は気象衛星ひまわりの観測を、▲は気象庁海洋気象観測船の観測を、それぞれ示します。
２段目：気象衛星ひまわりで観測された火山灰を含む噴煙の火口縁上の高度の日最大値を示します。
３，４段目：輝度温度は中心波長 3.9μｍ帯により観測されたものです。西之島を含む概ね 30km 四方の領域内の輝度温度の最大値と平均値を示しています。日射による影響を考慮し、夜間の観測値のみ解析しています。
４段目：※印の変化は気象要因と推定されます。

・西之島付近で周囲に比べて温度の高い領域は認められません。
・噴火は 2023 年 10 月４日を最後に観測されていません。



図２　西之島　全島とその周辺の状況（10 月 21 日 海上保安庁による観測）

・島の全周の広範囲にわたり、黄褐色及び黄緑色の変色水が認められました。



図３　西之島　周辺の状況（10 月 21 日 海上保安庁による観測）

・島の沿岸の一部に、浮遊物の塊が認められました。



図４　西之島　上空からの観測による西之島火口内の状況（10 月 21 日 海上保安庁による観測）

・噴火は認められませんでした。
・火砕丘中央火口の火口底で白色噴気が認められました。
・火砕丘中央火口内の火口湖は干上がっていました。

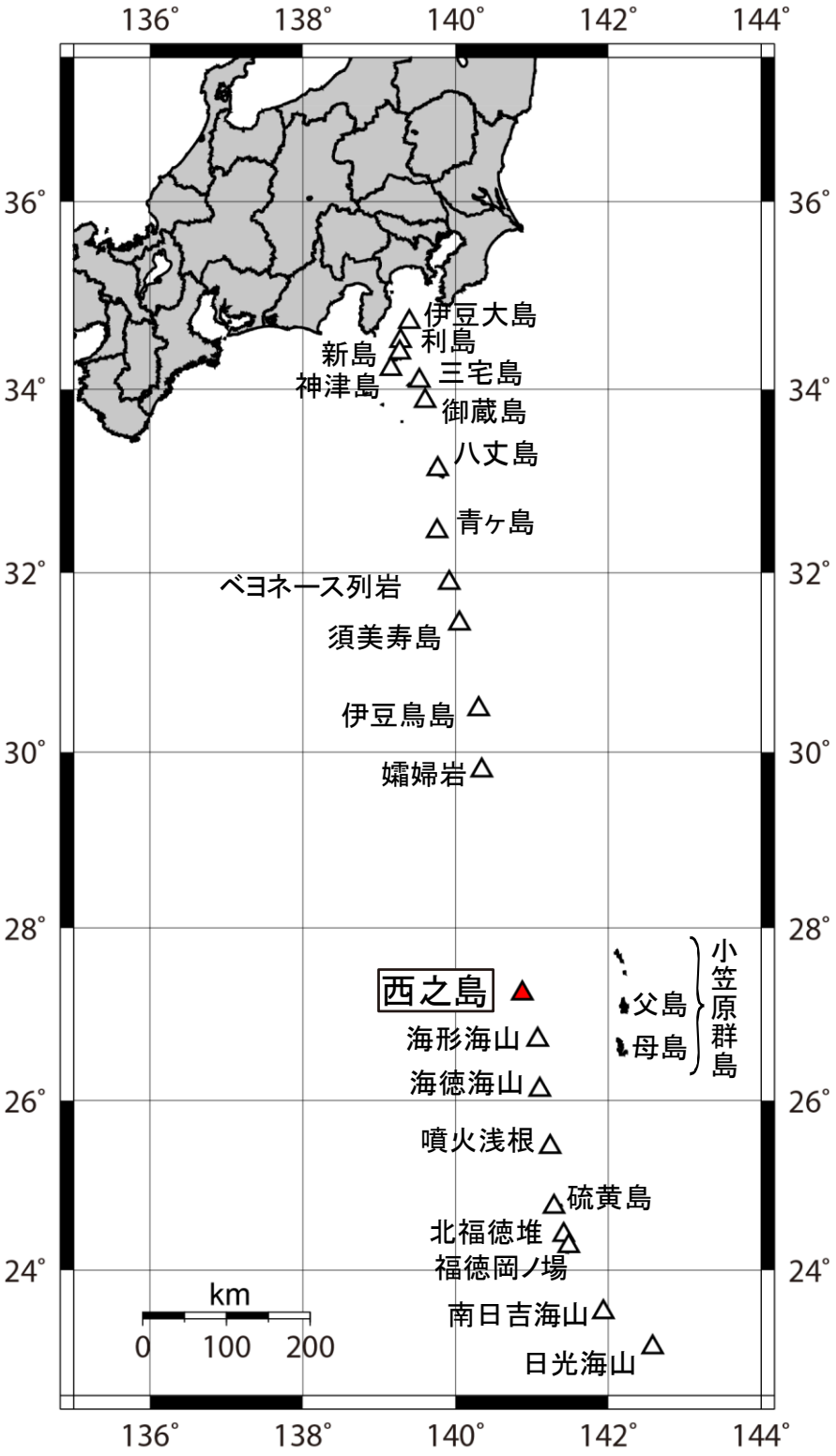


図５　西之島　伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び西之島の位置図

・西之島は、東京の南約 1,000km、父島の西約 130km に位置します。